

1 学校目標

自分のよさを生かしながら、ひとりだちできる子どもの育成

めざす児童像  
 さ さいごまでねばり強くやりぬく子  
 や やさしく思いやりのある子  
 ま よく学びよく考える子

2 研究教科 → 国語科を中心として、授業のねらいに沿って教科・領域を選定して行う。

3 研究主題

「主体的に考え情報を活用できる子の育成」～課題意識を高めるための授業実践～

4 主題設定の理由

情報技術は急激な進展を遂げ、我々の生活に深く浸透している。その結果、多種多様な情報が簡単に得られるようになり、スマートフォンやタブレット PC、パソコン等のコンピュータで、インターネット技術を使い、場合によっては Wi-Fi 等の無線 LAN を活用して多くの情報を閲覧している。また、インターネットショッピングや動画共有サイト等の情報技術を駆使したサービスも、日常生活において当たり前の存在となってきた。これらは既に、大人だけでなく子ども達にとっても当たり前の存在となっている。これからの子ども達は、このような極めて膨大な情報や情報技術をつかいかなししていかなければならない。

さらに今後は、未知である課題や問題を解決するために、これから開発されていく新たな情報技術やサービス等を活用したり、自分たち自身で作り出していったりすることになるかもしれない。そんな情報化が進展する社会においても求められる力が情報活用能力であり、情報活用能力を身につけるための手段として、「プログラミング教育」「情報モラル」「ICT 機器の活用」についての研究を進めていくこととする。

(図1)



図1 情報活用能力とは

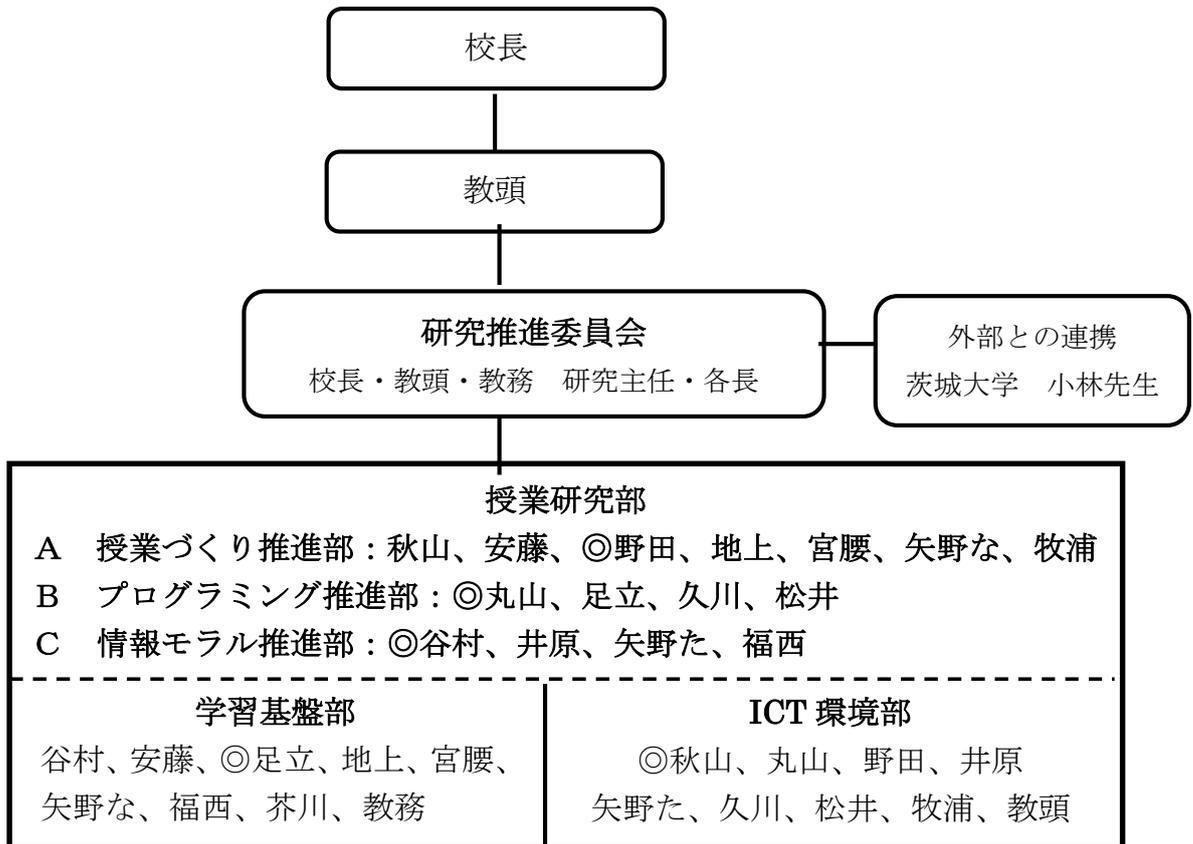
5 研究仮説

- (1) 各教科等の特質に応じて情報教育を取り入れ、情報活用能力の育成を図ることで、児童は教科等での学びをより確実なものにするとともに、自ら課題を設定したり、情報を収集したり、整理したりしながら主体的に学ぶ力を身に付けることができるのではないか。
- (2) 問題解決のために、物事を順序立てて考えることで、論理的思考力を高めることができるだろう。
- (3) 情報モラル資料を活用して、情報モラルに対して協同的な学び合いを行うことで、情報を適切に活用するための判断力や心構えを身に付けられるだろう。

6 3年間の研究の方向性（研究内容）

年度 テーマ	令和元年 (0年次)	令和2年 (1年次)	令和3年 (2年次)	令和4年 (研究発表)
課題意識		考えさせる授業	自ら課題を見つけ 出していける授業	問題・課題意識を もち、解決してい こうとする授業
論理的思考		プログラミング学 習の基礎	課題解決に向けて 論理思考で情報を 収集、整理・分析 比較・検討、表現・ まとめ	論理的な展開で課 題合わせて解決し たことを情報とし て発信
モラル		道徳と情報モラル の連携	情報モラルの充実 と年間指導計画	年間計画に基づい た児童の変容把握
情報機器の 活用	ICT 活用の ための機器 充実	情報インフラ整備 タブレット活用	タブレットの活用 充実期	遠隔操作による相 互授業

7 研究推進体制



## 各部の役割

研究推進部	授業研究部	学習基盤部	ICT 環境部
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究全体の進捗管理、各部の研究の調整</li> <li>外部講師、府小研との連携</li> <li>各学年、ブロックと連携しての授業研究</li> </ul>	<p>A: 情報活用能力を育むための授業づくりの推進</p> <p>B: プログラミング的思考を育むための計画とその運営</p> <p>C: 情報モラル教育の実施、啓発等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの時間の継続、進化</li> <li>非認知能力育成のための取り組み</li> <li>学力テストをいかした実践への足がかり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットやプロジェクター等を有効活用するための環境整備</li> <li>タブレット運用ルールの検討等</li> <li>各種アプリの新規導入、管理や運営</li> </ul>

## 8. 研究を進めるうえでの共通認識

昨年度の研究を進める過程で、「各学年修了時に目指す 児童の情報活用能力系統表」（別紙参照）の作成に取りかかることができた。今年度、その系統表を活用して、それぞれの学年で付けたい力を明確にして、実践につながりを持たせたいと考えている。そのために、授業に関わる研究を3つに分け、深めたい内容を明確にして研究を進めたい。

### A：情報活用能力を育むための授業づくりの推進

国語科の情報単元には、百科事典や科学読み物を活用した情報の収集や収集した情報を整理したり、関係づけたりする内容が扱われている。さらに、情報単元で学習したことを活用できるように、書いて表現する単元が計画されている。本校の重点研究において、この国語科の情報単元で学習したことを、国語科や総合的な学習の時間や生活科の学習のなかで行う表現活動に結び付けて、情報活用能力の育成を図りたい。そのために、国語科の情報単元が扱われている学習を、国語科の重点単元として、単元のねらいや学習内容、学習方法を計画的に行っていききたい。

### B：プログラミング的思考を育むための計画とその運営

昨年度、4年生の算数科でフローチャートを活用したり、6年生の理科の学習でマイクロビットを活用したプログラミング体験を行う授業について研究を深めることができた。今年度は、各学年の学習の中でプログラミング的思考を育む授業づくりを計画的に行うことを大切にしたい。スクラッチを用いた「円と正多角形」の学習やマイクロビットを活用した理科の「発電と電気の利用」の学習などにつなげていくためには、どの学年の、どの単元で、どのような体験を積むとよいのかを探りながら研究を進めたい。合わせて、論理的思考を育む授業の実践を日々増やしていけるようにする。

### C：情報モラル教育の実施、啓発等

GIGA スクール構想で一人一台のタブレットが配備され、学校教育の中で情報モラルの重要性が高まっている。また、SNS の活用が小学生にも広がり、生徒指導上の問題も懸念される。計画されている情報モラル教育を計画的に実践し、情報を扱う上でのモラルやマナーを身に付けさせることを大切にしたい。また計画されている学習だけでなく、子どもたちの日頃の様子から、必要だと思われる情報モラル教育をタイムリーに行っていくことも必要である。

また、学習した内容について保護者に積極的に発信していくことを通して、保護者にもモラルやマナーに対する啓発を行っていきけるとよい。